

# 日本共産党 川西市議員団 ニュース

発行  
日本共産党  
川西市議員団  
連絡先  
市役所控室  
TEL 740-1111  
議員団直通  
fax 759-1811

議員連絡先  
土谷一郎  
TEL \*fax 793-2134  
黒田みち  
TEL \*fax 790-3055  
住田由之輔  
TEL \*fax 759-4541  
大塚寿夫  
TEL \*fax 793-2243



## 生活相談

当番  
月：大塚  
火：住田  
水：土谷  
木：会議  
金：黒田  
市役所  
議員控室  
10～13時



## 宣伝・署名

アステ通路  
9日、5～6時  
9条署名  
15日、5～6時  
子ども・高齢者  
医療署名  
木曜、5～6時  
市会報告  
24日5～6時

### 6月議会請願審議

#### 日雇い特例保険被保険者へ 福祉医療費助成を求める請願

#### 賛成は共産党のみ 住田議員が賛成討論

日本共産党議員団を代表し、賛成の立場で討論を行います。

厚生経済常任委員会での討論を聞いていますと、皆さん総じて、請願者の思いはわかるとの発言をされていたように見受けました。請願者の窮状を何とか解決させたいとの意見もありました。それだけの思いがあるならば、請願の採択をしようじやありませんか。困っている皆さんが、小教であるうとおられ、少しの手続きと金額で、安心して働き続けることができると、議会として後押しをすべきではないでしょうか。財政が厳しい状況の下でも十分に措置できる事案であり、また、全議員の賛同で採択をしようではありませんか。

請願者が願っているのは、日雇い特例被保険者が医療費の給付を受けられない場合と規定されています。

それはよつぽどのことであり、一時的な措置です。当然なことながら、そうならないためきつい仕事も積極的に請け負ってこなしているのが現状であります。一方、いいながら、も今日の経済状況の下、特に新規建築件数が減少し、仕事量が減る中で、重いと裏腹に仕事に従事できない場合も増えてはいます。しかし、少なくとも市民の生活を保障するのは市であり国であります。

その生活、特に医療の補償を国がやらなければ、市がかわつてやってこそ、自治体としての責任を果たしたということになります。その後押しを議会がするわけですから、やっぱりこの請願は採択すべきではないでしょうか。

委員審査の中で、保険制度の一本化とか、この保険そのものが古いから改善させなければとの意見も出ていました。また国民健康保険に加入できるからいいじゃないかとの意見も出ました。それも大事なことで、国などへ働きかけて改善させなければなりません。

少なくなるとも請願者は、今生活している中で救済してほしいとの切羽詰ったものでもあり、国民健康保険に入ること

はできませんが、二重払いが発生しますし、次に日雇い特例に入るとすれば手続きとして一

年後になります。また国民健康保険は割高であります。日雇い特例は少なくとも事業者が半分負担でありますから、仕事が減ったときなど国保と比べれば、負担割合は少ないわけですから、そこにも魅力があるので

また働きに応じての負担でもあります。

近隣の、宝塚・伊丹市など継続してやっており、国が制度改善されるまでの間、川西市として救済措置をとれば解決するわけです。

7月1日から老人医療の助成対象者を大幅に減らす県の施策、川西市もそれに従っています。母子家庭、障害者医療費助成も対象者を大幅に減らしますから、除く約70万人が対象から除外され負担が増えていきます。

全議員賛成で採択という、暖かい心を持った川西市議会を市民にお見せしようではありませんか。

全議員賛成で採択という、暖かい心を持った川西市議会を市民にお見せしようではありませんか。

全議員賛成で採択という、暖かい心を持った川西市議会を市民にお見せしようではありませんか。



### 請願審査での委員会発言

◎教職員の定数改善を求める請願

・公明党（江見） 教師の資質の向上が大きなポイントと考える。30人学級・35人学級について我が党も推進しているが、具体性を持った内容の請願が望まれる。不採択。

・智政会（安田末廣） ただ単に先生の人数をふやしてくれ、と言うだけでは日本の教育がよくなるのか疑問だ。不採択

・政雲会（中礼） 川西市はほとんどで26～30人台です。少人数になつて、むしろ先生方の資質の向上を図るべきだと思ふ。不採択。

請願提出一覧	日本共産党	連合市民ク	政雲会	公明党	智政会	自治市民ク	清和緑風会
次期定数改善計画の実施に関する件の請願	賛成	賛成	反対	反対	反対	賛成	反対
教職員の定数改善を求める内容							
義務教育費国庫負担制度の2分の1復元と堅持に関する件の請願	継続審査	継続審査	継続審査	継続審査	継続審査	継続審査	継続審査
細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種を早期に求める請願書	賛成、即決	継続審査	継続審査	継続審査	継続審査	継続審査	継続審査
就学前の子どもの医療費無料化を求める請願書	賛成	反対	反対	反対	反対	反対	反対
健康保険法による日雇特例被保険者が当該保険で医療の給付を受けることができない際に、福祉医療費の助成をもとめる請願	賛成	反対	反対	反対	反対	反対	反対

# 就学前の子どもの医療費無料化を求める請願 土谷議員が賛成討論

2006年9月議会で、子育て支援のための「乳幼児医療費助成制度」の請願が採択されて以来、子どもの医療費無料化を求める請願は、不採択が続いています。今回も委員会審査では「主旨は理解できるが、今回は不採択である」「実現させたいと思うが、川西の財政を考えたいが、川西の財政状況から難しい。一定見通しがたつたら」というものです。請願主旨に反対だと言う意見は誰もありませんでした。「主旨は理解できる」「実現させたい」と思っているなら請願を採択し、議会の意思を行政に示すべきではありませんか。

近隣他都市においても、きびしい財政事情のなかで独自の支援を行っているわけです。三田市では通院は小学3年まで無料、入院は中学卒業まで無料です。

伊丹市と猪名川町では通院は就学前まで無料、入院は小学6年まで無料です。また、西宮市では来年7月から通院・入院ともに中学卒業まで無料になると伺っています。

こどもの医療費無料化近隣市町比較		
	入院無料	通院無料
川西市	0歳～小学校6年生まで 所得制限あり	0歳児のみ
三田市	0歳～中学3年生まで	0歳～小学校3年生まで 所得制限あり
宝塚市	0～5歳誕生日まで 所得制限あり	0～5歳誕生日まで 所得制限あり
伊丹市	0～小学校6年生まで 給食補助あり	0～就学前まで 所得制限あり
猪名川町	0～就学前まで 所得制限なし	0～就学前まで 所得制限なし

川西市では2006年9月議会で請願が採択され、0歳児の医療費が無料となりました。しかし、その後、請願は採択されておらず今日に至っていることには先述述べたとおりです。この間、他都市は川西市を大きく上回り独自支援が前進していき、私ども日本共産党は、少子化対策が叫ばれている今日、せめて義務教育が終了する中学に賛同を呼びかけさせてい

政府は05年8月に第8次教職員定数改善計画を立案して、小学1年生に35人学級を可能とする定数改善をかねていました。ところが公務員削減の論議が進んだことで、計画は案のままお蔵入り。定数改善計画があったにもかかわらず取り下げてしまいました。そして、06年度は父母・教師の願いに反し、「児童生徒の自然減にともなう」1000人の教職員定数の削減を行いました。

## 次期定数改善計画の実施に関する請願 土谷議員の賛成討論



これは定数改善計画が始まった1959年以来はじめてのことです。

現在、東京都を除く26府県で、地域住民の強い願いと運動で少人数学級が広がってきました。しかし、地方自治体の努力による少人数学級実施には財政的に限界もあることから、義務制第8次教職員定数改善計画を早期に実施し、学校現場に必要な教職員の人数・人材を確保することは緊急課題です。

委員会審査のなかでは、「教師の人数を増やしたら良いというものではない、質の問題もある。昔はもつと大人のクラスだった」など、教師の指導力に問題があるかの意見がありました。しかし、これはいじめや不登校、学級崩壊など、現在の子どもと教育をとりまく環境の変化を見ないものです。少人数学級の効果は文部科学省も認めているところです。

また、子どもたちのなかでの「学力の低下」が問題視されていますが、学習指導要領のおし



つけによる断片的な知識を棒暗記させるゆがみと基礎的な科目に必要な授業時間を保障していないことも問題です。すべての子どもに基礎的な学力を保障することは学校教育の基本的任務です。わかるまで教える、それを保障する少人数学級と教師の確保はどうしても必要だと考えるものです。国に対して議会の意思を上げていくことを呼びかけさせていただき、賛成討論とします。

### 請願審査での委員会発言

#### 健康保険法による日雇特例被保険者が当該保険で医療費の助成を求める請願

●公明党(岩田) 制度面での問題と制度そのものが古く今の時代に合致していない。保険制度の一本化に向かうべきだ。不採択。

●連合(小山) 制度そのものを整備しなければならぬ部分があり、やはり政府に対して弊害が出ないように言っていることが重要だ。不採択

●連合(多久和) 安易に例外を設けることは問題。何よりも国民健康保険に入るといことがあるので、不採択。



#### 就学前の子どもの医療費無料化を求める請願

●公明党(岩田) 当然市独自でやらなければならぬこと、県と連携して何が出来るか総合的な検討をしている。今、この時点で就学前という限定した請願については不採択である。

●連合市民ク(小山) 昨今の市財政状況のなか補助金の見直し等、最優先にしなければならぬ部分があり、これが一定整理がついた段階で、やるか否かを議論していかなければならぬ。今、この時点での採択は出来ない。

●連合市民ク(多久和) 請願の願意はよくわかるが、市の財政状況から考えて困難かなと思う、心苦しいけれども採択。